

No. 1326

カメラスケッチ

夢の島

東京湾に浮かぶ埋立地。ゴミによる海の埋立は8号地にはじまり、14、15号地とすすみ、はるか羽田沖までにおよんでいる。夢の島と呼ばれる14号埋立地。1000万トン以上のゴミの山が緑の台地に生れ変わり、東京都民のいこいの場になっています。この夢の島の片隅に第5福竜丸展示館が出来た。第5福竜丸は昭和29年3月太平洋マーシャル群島のビキニ環礁で水爆実験による死の灰を浴びたマグロ漁船です。

今では原水爆の悲劇がくり返されないことを願いつつ静かに余生を送っています。埋立地のなかを流れる運河。いかだが下町風情をみせています。木材関係の会社がすべてこの新木場に集められ14号埋立地を中心に木材流通基地が造られつつあります埋立地にもようやく野鳥が姿を見せるようになりました。カモ、ムクドリなど多くの鳥たちがここを訪れる人々を楽しませています。東京湾の埋立地は港湾機能を果たすためのものだけでなく豊かな海浜環境をつくりだすために進められています。埋立が開始されてから50年、今、大きく変わろうとしています。

混戦続くセ・リーグ

— 中日・巨人戦 —

息づまるようなデットヒートを続ける“乱セ”。6月8日からは首位攻防をかけてナゴヤ球場で注目の中日対巨人の3連戦が行なわれました。第一戦、三沢の一安打完封勝ちをおさめた中日は第二戦ベテラン星野仙を先発。一方6連敗中の巨人は江川が2度目の先発。試合は1回中日が江川におそいかり、ギャレット、大島が安打で出塁。このチャンスに田尾がタイムリーヒットで1点を先取。しかし巨人も今ひとつ調子でない星野から2回、シピン、中畑、河埜の3連打で1点を返し1対1中日は6回江川をリリーフした石井から井上がホームラン。更に藤波のタイムリーで2点を追加。リードしたところで中日のパターン、小松辰をマウンドに送ります、しかし小松は思いがけぬ不調で、巨人は8回柳田の四球を足場に王がヒット、シピンのショートゴロは一瞬ダブルプレーに見えたものの、一塁のジャッジはセーフ。気落ちした小松から中畑が左中間に2塁打河埜もライトスタンドにホームランで、この回4点。逆転に成功した巨人はエース新浦を投入し、そのまま逃げ切り、7連敗をまぬがれました。

中日は翌10日の三戦目、小松のリリーフで勝ち、このカード2勝1敗。セ・リーグはいよいよ混戦模様を深くしました。